里帰りプロジェクト寄付金を得て、国連環境計画（UNEP）が実施した活動についての概要

南アジア地域における海洋と沿岸生物多様性の保護

2010 年 10 月、愛知県名古屋市で開催された生物多様性条約第 10 回締約国会議（CBD COP10）で採択された生物多様性戦略計画 2011-2020 に基づいて 2013 年に行われた南アジア地域大臣会合において、南アジア地域海洋と沿岸生物多様性の保全に関する戦略計画を策定することが決定されました。里帰りプロジェクトの寄付金を得て、UNEP では、南アジア共同環境プログラム（SACEP）と共同で地域戦略計画の策定に向けた取り組みをサポートしています。

南アジア地域海洋と沿岸生物多様性の保全に関する戦略計画は、CBD COP10 にて採択された、生物多様性の保全に関する目標である愛知ターゲットに関する国と地域レベルでの取り組みを促進することです。生物多様性国家戦略の実施に関する政府間の協力を促進することも目的としています。

南アジア地域海洋と沿岸生物多様性の保全に関する戦略計画策定に向けた第一回の会議が 2014 年 7 月 8～10 日、スリランカの首都コロンボにて開催され、南アジア地域の 5 カ国と国際、地域機関の代表が参加しました。会議では、戦略計画に盛り込む 6 の地域目標について話し合われました。戦略計画の草案についての話し合いは今後も継続して行われ、2015 年に開催される第二回の会議にて完成し、2015 年末に開催予定の南アジア海洋国家大臣会合において採択される見込みです。

アジアにおける持続可能な沿岸漁業と食料安全保障

里帰りプロジェクトのサポートを得て、UNEPは、他の組織と共同で、生態系アプローチの漁業管理と混獲の管理への適用というテーマの地域会合を開催しました。会議は、2013 年 10 月 27～30 日にインドのコチにて行われ、小規模漁業に関する諸問題等について話し合われました。又、会議にて発表された論文は、Journal of Marine Biological Association of India という学術ジャーナルにも掲載されました。

会議は、生態系アプローチを漁業管理に適用した空間管理ツールである、「fisheries refugia」というコンセプトについての周知や地域内の政府間の協力関係の構築にも貢献しました。